

フランス週間報告

2014年度に、経済学部・経済貿易研究所はアンスティチュ・フランセ横浜、フランス政府留学局の協力、在日フランス大使館の後援を得て、10月20日（月）から24日（金）まで「フランス週間」と題する国際交流イベントを開催した。21日の兼子良夫経済学部長による主催者挨拶、関山誠横浜市政政策局国際政策室長、カトリーヌ・ドロゼフスキーアンスティチュ・フランセ日本大学交流&リセ部門主任・フランス大使館大学交流担当官、ジュリエット・ドウ・シャルモアアンスティチュ・フランセ横浜館長による来賓挨拶、石積勝神奈川大学学長による挨拶によるオープニングの後、シンポジウムや講演、公開講座など、さまざまなイベントが開かれた。

21日には、「フランスにおける日本－フランス人にとっての日本のイメージ」と題されたシンポジウムが、フランスからフィリップ・ベルティエリヨン第2大学教授、ジャン＝ミシェル・ビュテル INALCO 日本研究センター准教授を招き、本学的場昭弘教授を加えて開催された。23日にはフランス政府留学局担当者による「フランスで学ぶ」と題された講演が開かれた。

そして今年度も、昨年度に続き経済学部・経済貿易研究所の主催、アンスティチュ・フランセ横浜、フランス留学局の協力、在日フランス大使館の後援を得て10月12日（月）から21日（水）までフランス週間が開催された。13日の岡村勝義経済学部長による主催者挨拶、関山誠横浜市政政策局国際政策室長、ジュリエット・ドウ・シャルモアアンスティチュ・フランセ横浜館長による来賓挨拶、石積勝神奈川大学学長による挨拶によるオープニングの後、シンポジウムや講演、公開講座など、さまざまなイベントが開かれた。

12日、13日には、「フランスと EU」と題されたシンポジウムが開かれた。12、13日には、フランスからダニー・ラングパリ第13大学准教授、エリック・バールボルドー大学准教授、アラン＝マルク・リュリヨン大学教授を、国内からは12日には浜矩子同志社大学教授、13日には羽場久美子青山学院大学教授を招き、本学からの場昭弘教授を加えて、多くの問題を抱える EU の現時点について活発な議論が展開された。

19日には、「フランスの移民政策」と題されたシンポジウムが開かれた。ジャーナリストの池上彰氏、増田ユリヤ氏を迎え、フランスの移民政策についてさまざまな視点から幅広く議論が展開された。EU における移民問題に対する関心の高さを反映して、またパネリストが著名人であったこともあり、大教室に立ち見の聴衆がでるほど盛況であった。

21日には、作家・元外務省主任分析官である佐藤優氏を招いて「ロシアから見たフランス」と題された講演会が開催された。ロシアとフランスおよび EU との関係をいかに見るべきか、過去、現在から未来にまでおよぶ射程から数多くの論点が提示された。

また、大学生協による協力を得て、フランス週間の開催期間中には生協食堂にて簡単なフランス料理が供された。以上のバラエティに富んだイベントなどによりフランス週間開催中は、大学はまさにフランス一色であった。

2015年度フランス週間が成功裏に終えることができたこと、協力をいただいた関係者の方々に感謝します。

経済学部国際交流推進委員会